

組合を心のよりどりこ



関東塗料工業組合（篠原幸治理事長）は、第61

回通常総会を5月15日午後4時から東京都台東区上野公園の上野精養軒で開いた。

議案はすべて承認された。令和8年度の事業計画では、指導および教育事業は塗料製造事業に関する講習会・見学会（技術・環境、業務効率化、生産性向上）などを開催。情報または資料収集および提供事業では塗料製造業の経営に資する情報・資料、市場・市況に関する情報・統計資料、資材・生産および技術に関する情報収集・検

査等を提供する。調査研究事業では塗料分野別需要動向調査などを、経済並びに福利厚生は組合員の取り扱う塗料の原材料共同購買、共同販売、共同研究、共同物流等を行う。

表彰では、松本賞に元副理事長の神保敏和氏が、永年勤続役員表彰（勤続20年）では兒玉利行氏（UPGホールディングス）が受賞した。

総会終了後の懇親会で、あいさつに立った篠原理事長は「写真」は「中東情勢など現在大変な状況が続いている。ある報道によると、今回入らなくなった原油量は、1970年代に発生したオイルショック時と比べて約5倍の量だと聞いている。未だかつて体験したことのないような、オイル

ショックが起きていると思っている。関東工としては、まず正確でタイムリーな情報の収集と、組合員の皆様方に対する共有を目的に、緊急アンケートを実施し、集計結果は既に皆様にごフィードバックさせていただいている。皆様の会社で苦しい状況にあると思うが、少しでも安心していただきたいこととして、関東工は皆様の心のよりどころということである。苦しいときに助けてくれる仲間、欲しい情報を与えてくれる仲間、ときには愚痴を聞いてくれる仲間がここにはたくさんいる。

同じ塗料業界に勤める仲間として、手に手を取ってこの難しい状況を乗り越えていきたいと考えている」と述べた。